

COMPASS

答えの無い問いを探していく。そんな時代だから目指す方位を指し示すものが必要だ。そのようなものに私はなりたい。

「全国学力・学習状況調査」を活用した校内研修

千葉県では「全国学力・学習状況調査」の校内研修での活用率が低いことが課題となっていますが、そもそもどうして活用する必要がありますか？



「全国学力・学習状況調査」の調査問題や質問紙調査には、学習指導上重視される点や身に付けるべき力が具体的に示されています。それを適切に活用することで、授業者の授業改善や児童生徒の学力向上につながるのです。

では「COMPASS vol.2」で紹介した『令和3年度 学力向上の手引き』p.6の「全国学力・学習状況調査を活用した学力向上のための取組についてのチェックシート」の項目から校内研修への生かし方について考えてみましょう。



調査実施後の取組（結果公表前）

No	チェック項目
6	学校全体で教科の調査問題を解き、内容と出題の意図を確認した。
7	学校全体で質問紙調査の質問項目を読み合わせ、各質問紙の内容を確認した。
8	学校全体で児童生徒の解答を確認した。または、採点した。
9	校内研修等で、問題及び解説資料を基に指導改善のための話し合いを行った。

どうして結果公表前に調査問題や質問紙調査を確認するのですか？



調査の結果が分かるのは実施から数カ月後です。早い段階で調査問題や質問紙調査の内容を確認することで、**早期に授業者の授業改善や児童生徒の学力向上**に役立てることができるからです。

調査問題の分析から、指導方法の改善策について**職員間で検討**しましょう。また、出題の趣旨についても検討しましょう。ここでは、右の問題を参考に分析してみます。



「調査問題」から

引用：令和4年度全国学力・学習状況調査 小学校 国語①-四

普段から、自己決定の場や自分の考えを話す機会を設けること。（〈条件〉の一つ目から）

他の人の意見を参考に自分の意見を広げたり、まとめたりさせること。（〈条件〉の二つ目から）

前の人を発表を受けて、自分の意見について理由を明確にして述べるように指導すること。（〈条件〉の三つ目から）

以上の分析から、①学校全体で発表の仕方の基本形を共有すること、②学級において朝の会等で自分の考えを話す機会を設けること、③授業において自己決定の場をつくったり、友達の見解を取り入れて自分の意見を形成させたりするなどの活動が考えられます。**学年や教科を越えて、全ての職員が自分のできることに取り組むことが大切**です。



四 岡さんは、「話し合いの様子の一部」の□で、「ごみ拾い」か「花植え」かを□で、「ごみ拾い」か「花植え」かのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。
- 「話し合いの様子の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

「質問紙調査」から 引用：令和4年度児童〔生徒〕質問紙、令和4年度学校質問紙

	児童〔生徒〕質問紙	学校質問紙
質問内容	<p>6 あなたが5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業について、当てはまるものを1つずつ選んでください。 （各質問の選択肢省略）</p> <p>(38) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。</p> <p>(41) 授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた。</p>	<p>4 調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕に対する指導に関して、前年度までに、次のことをどの程度行いましたか。当てはまる番号を1つずつ選んでください。 （各質問の選択肢省略）</p> <p>(28) 授業において、児童〔生徒〕の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした。</p> <p>(31) 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。</p>

特定の学年ではなく、学校全体の取組が問われています。6年間〔3年間〕の見直しをもつことが大切です。

児童・生徒の考えを引き出すことは、国語、算数・数学、理科、英語以外の教科・領域でも指導する必要があります。

習得したことを活用しながら課題解決させる学習過程になっているか、計画の見直しが必要です。

学校質問紙調査は校内の代表一人が回答することが多いですが、上記のような**校内全体の授業改善に関わるような内容**については、**複数の職員の意識状況**を把握した上で回答することが大切です。職員と児童生徒、職員間での意識の違いがある場合は、その原因について検討し、改善の手立てを講じましょう。



結果公表後の取組（分析について）

No	チェック項目
12	教科に関する調査の結果について全国や県と比較し、分析結果を学校全体に周知している。
13	各質問紙調査の結果について全国や県と比較し、分析結果を学校全体に周知している。

自校の結果を全国や県と比較し、年度当初に設定した取組を見直しましょう。この時期に年度当初に始めた取組の進捗状況を確認するのもよいでしょう。なお、分析ツールについては「COMPASS vol.2」に詳しく掲載しています。



指導改善についての取組

No	チェック項目
27	検討した改善方策を基にした授業実践を評価し、改善点を話し合った。
30	各質問紙の結果を基に課題を学校全体で検討し、学校経営に生かした。

取組を相互参観し、良さを学びあったり、指導主事や外部人材等を活用し、自校の取組について指導助言を求めたりしましょう。



調査に関連する資料について

No	チェック項目
35	調査に関連する資料をファイルし、全職員が積極的に活用している。

資料がまとめられ、必要な時に閲覧できるようになっていると、活用される機会も増えます。国から出ている「**報告書**」「**授業アイディア例**」、千葉県総合教育センターが作成している「**学力向上の手引き**」の中の「**課題別実践アイディア例**」など授業改善の具体例が掲載されている刊行物もあります。是非、参考にしてください。



「全国学力・学習状況調査」については、結果そのものの一喜一憂するのではなく、学校全体でその後の授業改善に生かしていくことが大切です。